

建築士

おおた

秋季号

2013 NO 111



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

1. 新しい“公益社団法人”としての社会活動を目指して	会 長	芳山 憲祐
2. 公益社団法人大分県建築士会発足元年	副会長(総務担当)	末成 祐二
5. 女性部会のPage	大 分 支 部	仲道 美紀
7. 茅葺き屋根 — 技術の伝承 —	玖 珠 支 部	須賀 文廣
8. 日田豆田町伝建地区内に於ける瓦の様相	日 田 支 部	養父 信義
15. 建築士の集い大分大会参加報告	佐 伯 支 部	疋田 寛子
	宇 佐 支 部	奥田 和彦
17. インフォメーション(支部便り)	臼 杵 支 部	赤嶺 竜一
	佐 賀 関 支 部	井上 雅順
20. 我が街の建築士紹介	中 津 支 部	佐藤 博昭
	佐 伯 支 部	大林 豊文
	宇 佐 支 部	濱永 泰仙
	豊後大野支部	阿南 英彦
22. マイワーク	豊後大野支部	佐藤 勤也
	佐 伯 支 部	椎原 華愛
	中 津 支 部	中尾 忠廣
24. マイベストブック	豊後大野支部	佐藤 勤也
	玖 珠 支 部	白地 泰憲
	宇 佐 支 部	和田 幸三
26. おおいた建物発掘隊	高 田 支 部	後藤 憲二
28. 事務局だより	大分県建築士会事務局	

■ 表紙説明 ■



表紙の写真は JR 大分駅上野の森口側に平成 25 年 7 月 20 日にオープンした「ホルトホール大分」です。

新しい“公益社団法人”としての社会活動を目指して

公益社団法人 大分県建築士会
会 長 芳 山 憲 祐

建築士法は昭和 25 年 4 月 4 日に衆議院に議員提案として提出され、4 月 8 日の衆議院本会議において可決、4 月 26 日には参議院本会議においても可決となり、昭和 25 年 5 月 24 日に法律第 202 号として公布され、このかた今年で 63 年になります。

大分県建築士会はこれまで社団法人として幾多の困難を乗り越えて今日を迎えています。なかでも平成 18 年の姉齒事件は建築業界に大きな衝撃をあたえた事件となりましたが、大分県建築士会は、以前より社会に貢献する団体として基本理念に立ち返り、取り組むべく方向の確認を進めていました。

そのような時期に平成 20 年 12 月に「公益法人制度改革関連 3 法案」が施行され、現在の社団法人の団体は公益社団法人、または一般社団法人、もしくは解散の道のいずれかを選択しなければならないこととなりました。

そこで、大分県建築士会は建築士として社会に貢献する団体、および個人として取り組んできた経緯から、従来どおり公益性がある団体として『公益社団法人』を目指すことを全員の意志として理事会で決定いたしました。その後は直ちに手続きを進め、平成 25 年 3 月 19 日に認可を受けました。

また、今年の 4 月からは事務局を大手町から城崎町 1 丁目 3 番 31 号、富士火災大分ビル 3 階に移転し、新体制のもと公益社団法人としての運営を開始し、5 月 18 日の総会におきましては、名実ともに「公益社団法人大分県建築士会」として発足の記念式典を盛大に開催することができました。

その始動より早 6 ヶ月を経過しました現在では、公益社団法人としての取り組み事業は各支部や青年委員会・女性委員会を中心にして順調に推移しています。

今後、公益社団法人大分県建築士会としては、これまで以上に社会に貢献する事業として次の 5 項目を掲げて一層の活動を進めていきます。

- (1) 建築を通して安全で安心なまちづくりに取り組む。
- (2) 建築技術、特に建築構造技術を大分県から世界に、社会に発信できるよう技術の開発と蓄

積に取り組む。

- (3) 地域に根ざした建築を目指し、まちづくりを通して地域文化の伝承や活性化等の地域貢献活動に取り組む。
- (4) 地域の伝統的建造物の掘り起こしや維持管理・保全・保存・再生に関する提案や支援に取り組む。
- (5) 建築士を目指す若者を支援し、より多くの建築士の育成に取り組む。

これからもよりよい社会に貢献できるよう新しい時代を切り開く団体として、活動を推進してまいりますので、どうか会員の皆様には多大なご協力のほどをよろしくお願いいたします。

平成 25 年 10 月

公益社団法人大分県建築士会発足元年

未成 祐二（公益社団法人大分県建築士会副会長〈総務担当〉）

■なぜ、公益社団法人？

公益法人制度は、2008年に施行された公益法人制度改革関連3法に基づき民法に定められた明治時代以来の体系が大改革されました。これにより全国で二万を超える公益法人は、好むと好まざるとに関わらず本年11月までに新制度に対応することが必要になりました。

選択肢は、「公益社団（財団）に移行する」、「一般社団（財団）に移行する」、「何もしないあるいは移行申請が不許可となり、認定も認可も受けられない」の3つです。最後の場合は、その法人は移行期限の2013年11月末日をもって自動的に解散となります。

■大分県建築士会の検討経緯は？

会の使命を問い直し、将来を決める重要な問題であることから、平成22年度に新公益法人検討委員会を設置し、その後の各種の会議で、一般か公益かの議論を深めました。その結果、公益社団へ移行する方針を固め、平成24年度の総会で、「公益社団法人大分県建築士会定款」を決議しました。その後、大分県に認定申請書を提出し、公益認定等委員会の審査を経て、平成25年4月1日に、公益社団法人大分県建築士会が発足しました。

■一般社団と公益社団はどう違う？

一般社団法人は、従来の主務官庁制による許可制ではなく、社員2名以上で法務局に登録さえすればだれでも設立できることになりました。一方、公益社団法人は、公益法人認定法に基づき、行政庁の認定審査をクリアし、その後も監督を受けることとされました。このため公益社団法人の社会的な信用と信頼は、一般社団法人に比べますます高まってくることが予想されます。

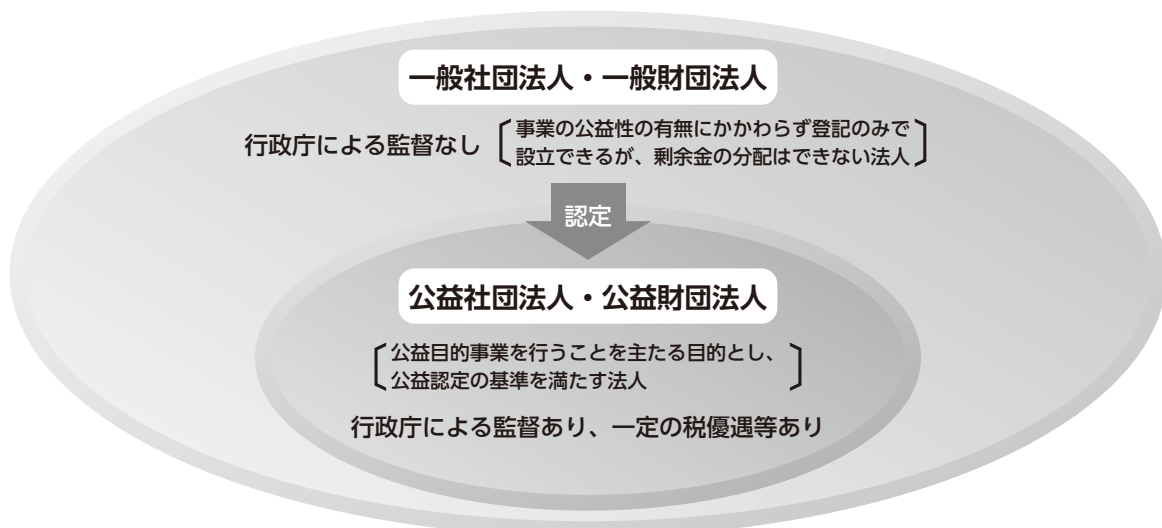
さらに、公益法人は、収益事業は課税されますが、公益目的事業は非課税です。加えて、収益事業等の利益は公益目的事業にみなし寄付が認められるなど法人税が優遇される大きな特典があります。

■一般社団の場合は？

一般社団への移行認可が必要です。その際には、既存の財産を公益事業で使い切る「公益目的支出計画」を作成提出し、移行後はこの執行を終えるまで行政庁の監督を受けます。

社団法人大分県建築士会の場合、会館建設等を目的に積立ててきた基金をベースに約5千万円の保有財産を、公益目的事業に支出する義務を負います。

新制度における一般社団法人・一般財団法人と公益社団法人・公益財団法人の関係は



■公益社団法人であるためには？

公益法人は、認定法第5条の基準を常にクリアする必要があります。①事業、②財務、③機関、④財産の4つの分野で基準が設けられています。審査は、「誰にどんな利益を生もうとしているか」がポイントとされています。大分県建築士会では、特に、「事業」と「財務」が重要ですので、くわしく記述します。

■公益目的事業とは？

「公益目的事業」は、公益認定法に定められた 23事業に該当し、かつ不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであることとされています。以下に、その23の事業を記載します。なお、大分県建築士会の実施事業は、下線のものに該当するとして認定を受けています。

- 一 学術及び科学技術の振興を目的とする事業
- 二 文化及び芸術の振興を目的とする事業
- 三 障害者若しくは生活困窮者又は事故、災害若しくは犯罪による被害者の支援を目的とする事業
- 四 高齢者の福祉の増進を目的とする事業
- 五 勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業
- 六 公衆衛生の向上を目的とする事業
- 七 児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
- 八 勤労者の福祉の向上を目的とする事業
- 九 教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業
- 十 犯罪の防止又は治安の維持を目的とする事業
- 十一 事故又は災害の防止を目的とする事業
- 十二 人種、性別その他の事由による不当な差別又は偏見の防止及び根絶を目的とする事業
- 十三 思想及び良心の自由、信教の自由又は表現の自由の尊重又は擁護を目的とする事業
- 十四 男女共同参画社会の形成その他のより良い社会の形成の推進を目的とする事業
- 十五 国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業
- 十六 地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
- 十七 国土の利用、整備又は保全を目的とする事業
- 十八 国政の健全な運営の確保に資することを目

的とする事業

- 十九 地域社会の健全な発展を目的とする事業
- 二十 公正かつ自由な経済活動の機会の確保及び促進並びにその活性化による国民生活の安定向上を目的とする事業
- 二十一 国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安定供給の確保を目的とする事業
- 二十二 一般消費者の利益の擁護又は増進を目的とする事業
- 二十三 前各号に掲げるもののほか、公益に関する事業として政令で定めるもの

■不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するとは？

以上の23の事業で区分した上で、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する事実を、次の17の事業区分で説明することが求められます。

大分県建築士会が実施する公益目的事業は、下線の区分ごとにチェックポイントに適合している事実をまとめて申請し、認定を受けています。

- (1)検査検定、(2)資格付与、(3)講座、セミナー、育成、(4)体験活動等、(5)相談、助言、(6)調査、資料収集、(7)技術開発、研究開発、(8)キャンペーン(〇〇月間)、(9)展示会(〇〇ショー)、(10)博物館等の展示、(11)施設の貸与、(12)資金貸付、債務保証等、(13)助成(応募型)、(14)表彰、コンクール、(15)競技会、(16)自主公演、(17)主催公演

この中から、建築士会が実施する機会の多い(3)講座、セミナー、育成について、国が示しているチェックポイントの内容を紹介します。

『講座、セミナー、育成』は、受講者を募り、専門的知識・技能等の普及や人材の育成を行う事業であり、防災研修など社会的な課題への対処、文化、芸術等の振興を目的とした専門的知識・技能の講座等があげられる。

- ① 当該講座、セミナー、育成(以下「講座等」)が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。
- ② 当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。
(注)ただし、高度な専門的知識・技能等を育成するような講座等の場合、質を確保するため、レベル・性格等に応じた合理的な参加の要件を定めることは可。
- ③ 当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為

(受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為)に当たって、専門家が適切に関与しているか。

(注)専門的知識の普及を行うためのセミナー、シンポジウムの場合には、確認行為については問わない。

- ④ 講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。』(公益認定等ガイドライン)大分県建築士会が実施している講演会、研修会は、問題なくこれらのチェックポイントに適合し、公益目的事業であると判断できます。今後は、あらたに公益目的事業を企画する際には、ガイドラインのチェックポイント(特に、受講機会が、一般に開かれているか)に基づいて公益性を確認することが必要になります。

■財務の基準について

3つの原則が定められています。①公益目的事業に係る収入が適正な費用を超えない(収支相償)、②公益目的事業比率(費用ベース)が100分の50以上、③遊休財産額が年間の公益目的事業費を超えない。

大分県建築士会の最近の年間事業費は、約9,000万円の規模になっています。そのため、この財務基準に適合しているか否かは、会運営の重要な判断材料になります。

遵守事項

- 公益目的事業比率は50/100以上
- 遊休財産額は一定額を超えないこと
- 寄附金等の一定の財産を公益目的事業に使用・処分
- 理事等の報酬等の支給基準を公表
- 財産目録等を備置き・閲覧、行政庁へ提出 等

■会計制度の見直し

今までは、余剰金が出れば繰り越す、不足が生じれば保有財産を取り崩して繰り入れる方法で会計処理してきました。しかし、同様の処理の結果、公益認定基準の財務原則に抵触すれば、公益認定が取り消されることとなります。したがって、年間を通して常に公益認定の財務原則と照合できるように会計を整理し、財務データに基づいて事業の進行を管理する必要があります。

従来の大分県建築士会の会計制度は、公益法人会計基準には適っていますが、収支相償などをリアルタイムでチェックすることには不向きでしたので、

勘定科目の見直しなどを進めました。その結果、公益社団法人元年である平成25年度の予算は、新しい型式で編成しました。

次に、建築士会の活動の多くは、会員のボランティア(無償の役務の提供)によって支えられています。

その結果、今までの事業費は、本来の費用より会員のボランティア負担分は圧縮されていますので、公益目的事業にかかる支出額は小さくて済むことから、収支相償の原則に合わない判断されることが危惧されます。

そのため、平成25年度予算では、公益法人の特典として軽減される税負担と会の管理経費の見直しなどを源泉にして、会員が会の活動に従事した労力に対して、僅かでも報償を支出できるように構成しています。また、本来、必要な費用が算定できるように報償費に関する規程を新たに設けました。

☆認定を取り消されると・・・

○定款の定めどおりに公益目的取得財産残額相当額の財産を類似の事業を目的とする他の公益法人等に贈与



1カ月以内に贈与されないときは、同額の金銭を、国又は都道府県に贈与

○認定取消し後は一般社団法人・一般財団法人として存続

■公益法人移行をばねに

公益法人制度改革への対応により、大分県建築士会で、会計基準、会のガバナンス(内部統治)、情報開示などが詳細に定められたことは、大分県建築士会が、会員相互の親睦会的な運営から公益目的事業を担うにふさわしい組織の運営に脱皮する良い機会であると考えています。

経営学者ピーター・ドラッカーは、「マネジメント」の概念を提唱し、世界の企業経営に大きな影響を与えましたが、非営利組織のあり方に大きな労力を費やした、非営利組織には自らの使命の実現のためには、企業よりも「マネジメント」の力が必要であることを力説しています。

公益社団法人大分県建築士会が、マネジメントの力を引き出し自らの使命の実現するために、会員の皆様が、公益法人の会員である誇りを持ち、公益社団としての使命を自覚していただいて、今までにも増して発言し、活動し、会を支えていただくことを願っています。

女性部会のPage^{ページ}

《平成 25 年度全国女性建築士連絡協議会東京大会報告》

「地域と共生する居住環境づくり」

～見直そう、これからの住環境と暮らし方～

日時：平成 25 年 7 月 13 日（土） 13：00～18：00

14 日（日） 9：00～13：00

場所：建築会館ホール



今回の基調講演は、TV や雑誌などで活躍されているアトリエ 4 A の天野彰さんが、「江戸に学ぶ狭楽しき」と題して 9 尺 2 間の江戸の裏長屋に住む熊さん八っあんに学ぼうというお話でした。狭い国土の日本で、さらに狭い都市に集中して住む。江戸の昔から変わらない住環境を狭苦しく住むのではなく、いかに狭さを楽しんで住むか。天野さんは、そのために建築士としてユニークな提案をされています。そのお話の中で特に印象に残ったのは、江戸の長屋はバリアフリーの家でもなくましてや車いすなどで暮らせる家ではなかったはず。そんな中で、老いた熊さん八っあんなは工夫を凝らして生活していたでしょう。その精神に倣って、ベッドからトイレ、さらには浴室へと自力で腰をずらして移動するベンチや、そのまま洗い場のスノコまで這って行き寝たままシャワーを浴びるなど究極の自立を考えた天野さんのお仕事の実例です。超高齢化社会を迎えた今、一日でも長く“我が家で生きていく”ことを考える。これからの仕事の根幹にしていきたいと思いました。

次に、昨年度、高齢化社会に向けた取り組みとし

て行った「高齢者・障害者の居宅サービスの受給に適した住宅事例調査」についての報告。また、女性委員会で継続的に取り組んでいる震災状況の報告。2 年経過した現地の状況を福島・宮城・岩手の方が報告してくれました。現地の情報を皆で共有し、私たち建築士として何が出来るのかを考えるということは継続していかなければならないことだと感じました。

次の日の分科会で私は、人との関わりが希薄で不得意な人が多くなってきたなか、震災以後、コミュニティの大切さが見直されていることから、H 分科会の「集まって住む」について考えてみたいと思い参加しました。

1 例目は、竹中工務店の笹井さんが手掛けた「ラティス芝浦」



ビフォー



アフター



内観

築 20 年のオフィスビルを賃貸住宅・SOHO にコンバージョンした建物で、かつてジュリアナ東京

などがあつた芝浦の運河沿いに建つという環境からクリエイター達をメインターゲットにしたそうです。車を眺めながら暮らせるガレージハウスや海外のロフトをイメージしたスタジオタイプなど、肩で風斬ってる男性たちが住んでいそうですね。

2例目は、アトリエ E03 の天野さんが手掛けた「大森ロッジ」



外観



内観

昭和 30 ~ 40 年代に海苔の養殖で栄えた大森にある長屋をリノベーションしたもの。ヒト・モノ・マのゆるやかなつながりを再生しているそうです。こちらは、入居希望者を大家さんと管理人でもある天野さんが面接して決めるのだとか。入居者は、若い女性が多いそうです。

1例目は、完全にプライバシー重視。2例目は、プライバシーをある程度保ちつつも近所づきあい重視。「集まって住む」の両極にあるような住まいですが、どちらも明確なコンセプトを持ち、ターゲットを絞り込むことによって、今ある住宅ストックを再生し、百年建築に延命することができる。これこそ環境負荷の低減に繋がるのではないのでしょうか。

その後の意見交換では、都市だから需要があるのではないか。との意見もでしたが、地方でも考えてみる価値はあるのではないだろうかと思いました。

とてもユニークな住まい方を見ることができて有意義な2日間の協議会でした。

仲道 美紀

茅葺き屋根 — 技術の伝承 —



茅葺職人 二世 義文さん

建築士会玖珠支部
須賀 文廣

茅葺職人の二世 義文さんをご紹介します。

二世さんは18年間勤めた会社を退職し、茅葺の技術を引き継ごうと父の後を継ぎ茅葺職人となりました。

茅葺の実績としましては、一部を紹介しますとH22年玖珠町北山田・中村邸、H23年湯布院・山内邸、H24年佐賀県吉野ヶ里（9棟）H25年玖珠町森・長邸そして、湯布院・二本の葦束、等を父親に教わりながら経験を積んでまいりました。

玖珠支部ではH22年ごろから2カ年にわたり郡内全ての茅葺民家の調査を致しました。その結果

751件もの茅葺民家を確認致しましたが、そのほとんどはトタン屋根等に覆われていました。火災等になりやすい、材料が手に入らない、職人が少ない、修繕費用が高い等いろんな条件が重なり、本人の茅葺にかける熱い思いに関係なく、今の建築環境が茅葺等の建物に厳しい環境となっているのも事実です。茅葺職人の仕事も減少しているという厳しい現実となっています。

その中で二世さんは、将来文化財等の建築物にも関係していきたく日々、技術の研究向上を続けています。

今回、大分県建築士会主催の「建築士の集い 大分大会 in 日田」で玖珠の茅葺民家紹介ということで二世さん親子が改修工事をした、長邸を職人さんの立場からご説明していただきました。今後も二世さん親子に努力して頂き技術の継承を続けていただきたいと思います。

玖珠支部も微力ながら応援したいと思います。



【建築士の集い 大分大会 in 日田第3分科会茅葺民家（長邸）見学会参加者】

日田豆田町伝建地区内に於ける瓦の様相

Y.O 設計 代表 養父 信義

1. 隈町、豆田町の生い立ち

文禄3（1594）年、宮木長次郎により日隈城が築城。その城下町として隈町が発足した。豆田町は、それより遅れる事7年後の慶長6（1601）年、徳川方の小川壺岐守光氏が入領、月隈山に丸山城を築き、城南に町場を形成した事に始まる。



日隈城跡



丸山城跡

徳川の治政となり、太閤蔵入地であった日田は、日隈城主となっていた毛利高政が佐伯に国替えとなり、隈町は城下町の役割を終えて在郷町としての町並みが形成されていく。

豆田は寛永16（1639）年、幕府領として代官所が置かれ、享保9（1724）年から代官の日田在陣が定着し、明和4（1767）年から西国筋郡代として、九州各藩への睨みを利かす。明治に変るまで天領としての日田であるが、明治から今日に至るま

で幾多の騒動や災害などの経済的低迷からか、江戸期、明治・大正期等の建物がそのまま数多く残った町で、その風情を良く留めている。

但し、町の発足時から現代の様な瓦の町並みが出来ていた由ではない。茅葺屋根の家が軒を連ねていた事は明白である。それ故にひとたび火災が発生すると百棟を超える大火災が頻繁に起きる。隈町では元禄6（1693）年以来百棟を超す火災は明治までに6回、豆田町は明和9（1772）年7月の火災が花月川の川風に煽られ、豆田町は残らず焼失する。又、同年冬には南隣接地の中城町も焼失し、広範囲に渡り焼け野原となった事が解る。この時焼け残ったのは瓦葺屋根の土蔵数棟であった。その後明治に入り2回（M13・M20年）の火災記録がある。また、隈は南に三隈川を、豆田は北側に花月川を構えているために両町共に大水害を多く経験しているし、明治3（1870）年には竹槍騒動（百姓一揆）による打壊しで日田地域一円におよぶ事件も発生している。

両町共に多くの災害を経験し、草葺屋根真壁造りから瓦葺居蔵造りへと変遷していき、今また火災が少なくなると化粧タルキ等の軒などが出来て来る。

2. 残存古瓦

幾多の災害等を潜り抜けて、今日現存している建物で古いのは、隈町に於いて山田家下蔵が元禄12（1699）年〔棟札残存〕、豆田町では諫山家主屋（旧手嶋家）が元禄12年（口伝であるが）と伝えられる。



山田家下蔵



諫山家主屋

続いて草野家座敷蔵が享保16(1731)年〔鬼瓦及び平瓦等数枚にへら書有り〕また、同仏間棟が元禄年間と言われるも、当初は茅葺〔小屋組に叉首尻の穴痕跡が残る〕であったが、明和9年の大火で焼残り、瓦葺屋根に修理〔安永2(1773)年銘の瓦が出る〕している。その他では安永2年の墨書が残る坂本篤家(旭饅頭)。薫長酒造北蔵東棟が宝暦7(1757)年と同8年。同じく北蔵西棟に安

永4(1775)年と同9年(へら書きの平瓦等がある)また、同酒造に残る鳥休瓦のへら書き「元禄15(1702)年中津瓦屋 弥七」銘が残るが、どの棟のものかは特定できない。この外にも宝暦年間から文政年間までのへら書銘文入りの瓦が数多く発見されている。

下記一覧表を参照されたい。

へら書銘文瓦一覧表(日田地区)

号	年号(西暦)	銘文	瓦種別	所在
1	元禄15年(1702)	元禄十五年、中津瓦屋、弥七	鳥休伏間瓦	富安家
2	享保16年(1731)	享保拾六亥年・瓦師中城村中民所兵衛同民半七・同民林右衛門	棟鬼瓦・本葺軒平瓦・丸瓦	草野家座敷蔵
3	享保21年(1736)	享保二十一年二月、瓦師中富林右衛門	本棟鬼瓦	日本丸岩尾家
4	宝暦7年(1757)	日田郡新原邑、宝暦七歳丑三月吉日、かわら師治右衛門	右袖瓦	富安家北蔵東棟
5	—	治右衛門	軒平瓦	西光寺本堂
6	宝暦8年(1758)	宝暦八歳寅正月吉日、新原瓦師治郎	本葺軒平瓦	富安家北蔵東棟
7	宝暦10年(1760)	宝暦辰八月吉日	本平瓦	長善寺
8	宝暦11年(1761)	宝暦十一歳辛巳、新原治右衛門	本葺軒巴瓦	長善寺
9	—	新原治右衛門	本葺軒平瓦	長善寺
10	宝暦12年(1762)	宝暦十式年午閏四月吉日、渡里長善寺御堂。豊後日田郡拾貳丁邑、かわら師儀右衛門	本平瓦	長善寺
11	宝暦12年(1762)	宝暦十二、午、年	本葺軒巴瓦	長善寺
12	—	瓦大師、清兵衛忠房。忠蔵。嘉平次。嘉平。惣吉。林平	丸瓦	長善寺
13	—	御堂瓦、発端、□□□(人名)他	丸瓦	長善寺
14	—	昨日残花今日開、百歳會無百歳人	丸瓦	長善寺
15	明和9年(1772)	明和九年辰八月吉日	右袖瓦	草野家座敷蔵
16	安永2年(1773)	安永二巳十二月吉日	棧平瓦	草野家仏間棟
17	安永4年(1775)	安永四年未九月吉日、新原儀右衛門	右袖瓦	富安家北蔵西棟
18	安永6年(1777)	安永六年酉九月吉、瓦師十二町村住高瀬儀右衛門永重	棟鬼瓦	長福寺玄関棟
19	安永7年(1778)	安永七戌二月吉日、新原瓦師儀右衛門永重	二ッ巴唐草軒瓦	草野家店棟
20	安永9年(1780)	安永九子四月吉、新原儀右衛門	本葺軒平瓦	富安家北蔵西棟
21	天明6年(1786)	天明六年午春瓦師新原住高瀬嘉平次	軒瓦(棧)	長福寺庫裡
22	天明6年(1786)	天明六年午四月吉、新原嘉平次	軒瓦(棧)	長福寺庫裡
23	天明6年(1786)	天明六年午春、瓦師新原住高瀬嘉平次作	棧平瓦	長福寺庫裡
24	—	瓦師新原住高瀬嘉平次作之	棧平瓦	長福寺庫裡
25	寛政7年(1795)	寛政七年卯八月吉日、瓦師新原庄右衛門	鬼瓦・鳥休伏間瓦	西光寺本堂
26	寛政7年(1795)	寛政七年卯三月吉日、瓦師新原嘉平次	軒平瓦	西光寺本堂
27	文政6年(1823)	文政六年未年八月吉日、瓦師新原藤四郎作	軒平瓦	西光寺本堂
28	文政6年(1823)	文政六年未年八月吉日、瓦師十二町新原藤四郎作	軒平瓦	西光寺本堂

文は同一文である。また「引合」刻印で「花卉状文均整唐草葉文」の瓦が白杵に使用されているのを確認している。この「引合」は白杵には多数見られるとの事。年代は少し若いようである。



「下ノ村」刻印



「細和」刻印

国東の様式は武蔵町の椿八幡神社(創建1640年、修理は文政4・明治3・同30・昭和54年屋根修理とある)の軒瓦の瓦当文が変形橘文均整唐草文であり(個々の線分は太目である)鎌軒瓦で「今市」の刻印が外区にあり、瓦当文は「半菊花均整唐草葉文」の物があるが、この地区でこれ以外の事は不明である。また宇佐地区も知り得ていない。

中津の野依地区にあった窯場は、明治初年頃より製造を開始し、大正から昭和10年頃が最盛期で当時に窯元は15～16軒あったとの事。戦時以降から衰退し昭和63(1988)年に最後の1軒が廃業した。ダルマ窯であったとの事である。

日田地区の瓦は先述した一覧表の通り古瓦が発見されている。それでも歴然としている通り日田地区だけで他地区の瓦とは異にしている。日田地区内に4ヶ所の窯場があった(一覧表は2か所だが明治から昭和にかけて、2ヶ所の窯場が出現する)。

銘入りで最古品は富安家所蔵の元禄15(1702)年中津瓦屋 弥七とあり、中津から入荷したのだろうか。他所分はこの1点のみである。続いて草野家、日本丸岩尾家より恵比寿・大黒一対の鬼瓦が有る。瓦師・生産地・年代も一覧表に示す通り、草野家で末席であった林右衛門が5年後は1人で作成している。宝暦年間から幕末までは新原村に窯場が移っている。中城村(城内まで)の粘土が底をついたか、

つい最近までその跡地は深田で蓮根堀であった。

新原村の瓦師で特筆すべきは、長福寺玄関棟鬼瓦で安永6(1777)年のへら書で「瓦師十二町村高瀬儀右衛門永重」とある。つまり「苗字と字と諱」が付いている。同じ草野家店棟軒瓦(二ツ巴の花卉状文変り唐草文)に「儀右衛門永重」とある。又、長福寺庫裡の天明6(1786)年の軒瓦に「瓦師新原住高瀬嘉平次」と苗字付で残る。この2名はなぜ苗字が許されたか。筆者独断の解釈を述べさせてもらえれば、明和4(1767)年に掛斐代官の時西国筋郡代に昇格する。その5年後の明和9(1772)年に豆田町を残らず焼き尽くす大火災が起きる。火災に強い町並み整備に大量な瓦を要し、豆田町の復興に儀右衛門は貢献したと思われる。安永前半年の瓦が多数残っているのもこの為であろう。嘉平次は儀右衛門の息子か縁者であろう。

その後、清水町の住吉で瓦生産がある。明治17(1885)年に開窯。昭和16(1941)年に終業している。住吉瓦は釉薬瓦で諫山真吉・諫山源市等が、淡路瓦に師事し研究を重ねたと聞く。市内に現在も数軒残存している(この瓦は背面に引掛棧がなく「ナジミ土」置きで葺き上げる)。

市内朝日地区に「朝日瓦又は小迫瓦」と呼ばれる窯場があり数戸の窯があった。開窯年は当方が未調査ではっきりしないが、江戸末頃からであろうか。終業は昭和30(1955)年頃である。

近世に於ける日田地区での瓦の変遷は、江戸中期の中城瓦に始まり、江戸中期から末期にかけて新原瓦。明治から昭和中期・戦前頃までが朝日瓦と主流が移っていく。

この流れの中で、明治から大正にかけて城島瓦(福岡県城島町)昭和中期頃から神崎瓦(佐賀関町)が日田に進出して来る。しかし、日田地区は山間部であり年間寒暖差は40度を超え、1日の差でも10度を超えている。瓦にとっても過酷な地域であり、凍てや割れなどが起こる。その為寒に強い瓦としてセメント瓦が昭和末期まで施工されたが、経年と共に劣化(非常に薄くなる)するため、現在は製造されていない。現在の主流は、石州瓦と三州瓦が葺かれている。

5. 豆田伝建地区での時代別軒先紋様について

日田地区の瓦の窯元が無くなって早や50年が過ぎました。大分県内にも細に安藤瓦工業が1戸残るのみです。その結果大量生産地の瓦になります。地方の特色は無くなり全国的に同一文様の瓦になって

しまい、どこに行っても「石州村か三州村」になるわけでは、豆田町が「伝統的建造物群保存地区」に平成16年12月に選定されたのを期に、量産瓦では豆田らしさ、ひいては日田らしさが無くなると感じ、そのらしさを残すために、現在も軒先を飾っている文様の瓦を葺きたい。そして江戸、明治大正、昭和の三種類に区分されるとなるとお良いと思ひ立ち、オリジナル瓦の金型の製作に至った。



小巴 江戸 小巴 明治大正 小巴 昭和



軒先瓦当文
江戸



軒先瓦当文
明治大正



軒先瓦当文
昭和



軒巴 江戸 軒巴 明治大正 軒巴 昭和
オリジナル瓦 金型

又、瓦の生産地については、地産地消すべく佐賀関の瓦を第一に考えて、焼成温度1000度以上に加え、-20度の耐寒テスト30回に耐える条件を付加し、パスした。今現在金型9種類を細の安藤さんに貸し出してある。一人で生産しているために、三州丸栄瓦にも対応出来る様をお願いしている。瓦は六四版とし引掛棧付きで水返しを付けるよう特注した。以下はその文様である。江戸期の瓦当文は中央菊花文に均整唐草文とし、小巴は右三ツ巴文。軒

巴は三ツ巴に十六数珠掛とする。明治大正期は瓦当に中央菊花文に均整唐草文（城島のアレンジ）に小巴は右三ツ巴文十五数珠掛。軒巴は右三ツ巴に十二数珠掛。昭和期は瓦当内区の凹型の両端が木瓜形をなし、半菊花珠点を有する中心飾りの均整唐草文に小巴は右三ツ巴とする。軒巴は左三ツ巴に十二数珠掛にする。

以下その文様また、この金型の製作に合わせて平成20年2月にはNPO法人本物の伝統を守る会主催の「天領日田の葺シンポジウム」を開催し、日田瓦の宣伝と町並み保存の研修会を行なった。約150名の方々が大分県内外からの参加を得たことは、その精神の普及と啓発を市内外に発信出来たと自負している所である。



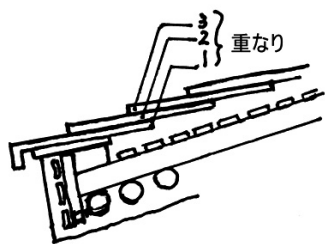
「天領日田の葺シンポジウム」

6. 日田に於ける瓦葺の工法

日田は地震に対しては恵まれた地であった。数年前（平成17年の博多湾沖地震）の震度4が来るまで震度3を超えたことは無かった。又、風も台風が直撃する以外（平成3年はすごかった）盆地であるためか、日頃強風は吹かない。水害は治水事業を施す以外なく、火災に於いては各自各戸で注意を怠ることなく外廻りに可燃物を設けないことである。前述した多くの火災等からの教訓として、瓦葺屋根に居蔵造りの建物が発展してきたわけである。また、近年に至って簡易防火型の建物が増えてきたが…。

そこで屋根の施工要領について少し述べることにする。近世に於いては、竹野地が主流であり木垂木の間に丸竹を配り、割竹を「ツツラ」等の蔓紐で縛る。広巾の杉皮を1～3枚重ねで貼り、割竹で一尺五寸程度に止め付け、粘土を7～8cmにベタ置きし、瓦を挿すり込む。瓦の葺足は下図のごとく3段重ねと

なる様に葺く。次々に瓦の重量がかかり吹き上げることは少なく、瓦尻から銅線で「トンボ」を引くことのできてない屋根もある。現在の密閉



気孔の瓦でこの要領の施工をすると結果は思わしくない。なぜか？瓦が結露しベタ土をいつも濡らした状態となり、雨漏りしたようになる。ベタ土工法の際は更に一筋置き葺きをすることと、文明の力を使うと良い。つまりルーフィングを杉皮の上に敷き込む。近世工法の現代版である。伝建地域での施工要領は伝統工法で葺くと瓦枚数が1.7～1.8倍となり費用負担も大きくなり、重量も重くなる。そこで六四版の引掛棧付瓦とし、板野地にルーフィングを貼り、瓦棧を打ち、瓦を釘留めする。また一筋のナジミ土を置いた施工も行なっている。瓦の固定は、近年気候風土の変化があるので、ステンレス釘等で一枚毎に止め付ける事を奨めている。

日田豆田伝建地区の町並みは、瓦屋根と外壁の始末で良くも悪くもなる。特に瓦の仕様で大きく左右されると思う。既成の瓦を使い続ければその内豆田町でなく、大正村（大正期から使用されている万十瓦や量産メーカーの既成瓦当文様の瓦など）となってしまう事を危惧するものである。

参考文献

吉田寛著 豊後における明治時代前半の瓦当文様



住吉瓦（釉薬）

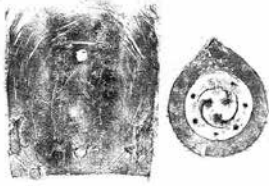


武蔵町 椿八幡神社 軒平瓦



武蔵町 椿八幡神社 軒平瓦

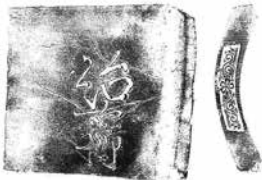
西光寺所蔵瓦拓本



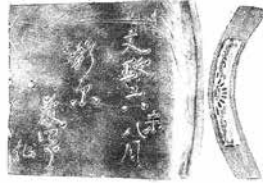
(イ) 鳥休伏間瓦
寛政七^甲八月吉日 瓦師新原庄右衛門



(ロ) 本葺軒平瓦
寛政七年^甲三月吉日
新原嘉平次



(ハ) 本葺軒平瓦 五弁二葉変唐草紋
治右衛門 (銘=宝曆 紋=安永年間)



(ニ) 本葺軒平瓦 均正菊水紋
文政六年^甲八月 新原藤四郎作



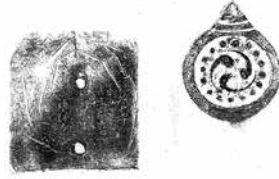
(ホ) 本葺軒平瓦 瓦当部欠損
龍頭、又は、鬼面給 (年代不詳)



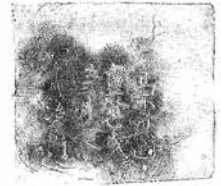
(ヘ) 本平瓦
人面 (人首) 絵末 (年代不詳)

西光寺所蔵瓦 拓本

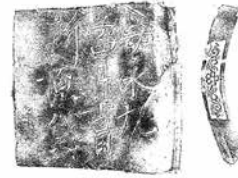
富安家所蔵瓦拓本



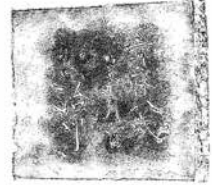
(イ) 鳥休伏間瓦
元禄拾五年^甲三月吉日 中津瓦屋 弥七



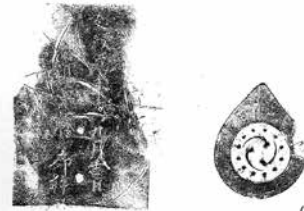
(ロ) 本葺右袖瓦
日田郡新原色 宝曆七歳^甲三月吉日
かわら師治右衛門



(ハ) 本葺軒平瓦 五弁二葉変唐草紋
安永九^甲四月吉日 新原儀右衛門



(ニ) 本葺軒平瓦
宝曆八歳^甲三月吉日
かわら師治右衛門



(ヘ) 鳥休伏間瓦
文政元年^甲九月吉日
新原藤四郎作

富安家所蔵瓦 拓本

草野家所蔵瓦拓本



(イ) 本葺丸瓦 座敷で発見
享保拾六^甲年
瓦師中城村 中民所平衛
同民 半七
同民林右衛門



(ロ) 本葺右袖瓦 座敷で発見
明和九年^甲八月吉日
明和大火の一ヶ月後の瓦

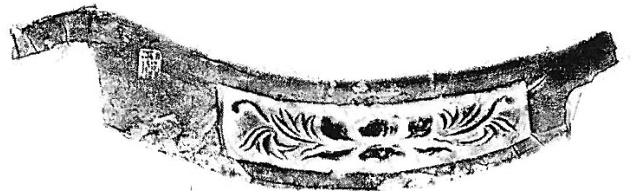


(ハ) 棧平瓦 仏間棟で発見
安永二^甲十二月吉日
明和大火の翌年の瓦



(ニ) 棧軒平瓦 ニツ巴五弁二葉変唐草紋
安永七^甲二月吉日
新原瓦師儀右衛門

草野家所蔵瓦 拓本



日出町致道館瓦当文様 拓本

九州ブロック建築士研究集会

建築士の集い 大分大会 in 日田に参加して

佐伯支部 正田 寛子



大分大会となる今回、私は9時に現地（日田市 パトリア日田）入りし、女性部責任者の指示のもと、受付等の準備から始まりました。受

付が開始し、会場も各県からの参加者でにぎわってきました。担当していた鹿児島県の参加者の受付を確認後、私も会場の中へ入りました。各県ごとの地域活動報告等の発表も終わり、各分科会が、開始されました。

今回私が参加した第一分科会は、今、我々建築士に何ができるのか ～地域実践活動情報共有～をテーマに発表だけでは伝えにくい地域実践活動報告の苦労話や問題点を聞き、他の視点から意見を集め、事前に班（各県ごと）分けをされた12名で、ワークショップ形式でまとめ、各班ごとに発表会を行い参加者全員で共有して行きました。

各班には、サポートとして、ファシリテーターが配置されていて、熊本県の班になった私は、そのファシリテーターとして参加しました。



熊本県の地域実践活動報告は、くまもとアートポリス第88番目のプロジェクトとして建築された、天草アーバ（アイススポットとなる

東屋的な休憩スペース）を「くまもとアーバ建築塾」として、建築士会天草支部を中心として、県内外の建築士や学生、聴講生が進められ、プロジェクト全般にわたって、多くの塾生が参加して完成した天草アーバの活動報告でした。この地域実践活動報告の発表を担当した熊本県天草支部の橋本さんより、天草アーバの挑戦について、苦労した点や問題点などを聞きました。

その話を元に、テーブルリーダーを決め、各県の支部より集まった方々の意見や考えを模造紙に書き込み、打開策や今後の展開について討論して行きました。

この「くまもとアートポリスのプロジェクト」を他県で…しかも地元で共有…アートポリス…建築塾…。熊本県だから出来る。他県では無理がある。なぜ無理なのか？。熊本県民がうらやましい…等 議論し、将来、この九州ブロック建築士会で九州アートポリスを作れたら…とまで話が膨らみました。

分科会終了後閉会式に出席し各分科会の報告等を聞き、研修集会終了。会場をマリエールオークパイン日田に移し、意見交換会へ出席しました。懇談・余興・日田のゆるキャラ「たんそうさん」にも会え、盛りあがりしました。宮崎県の余興「餅投げ」で投げられた御餅は甘くておいしかったです。残念ながら特賞のマンゴーは当たりませんでした。

大分県民だけど、久しぶりに足を踏み入れた日田の街、楽しいひとときでした。

九州ブロック建築士研究集会

建築士の集い in びた

宇佐支部 奥田 和彦

今回の集いは「大分県開催」。私たち青年部は各支部ごとに1年前から準備に取り組んできました。天候にも恵まれた開催当日。総勢488名、九州各県から来られる参加者の方々を、式典会場パトリア日田に迎え入れました。



各県発表の地域実践活動の報告は、毎年様々な角度から建築士としての取組みが発表され、私はいつもこの地域実践活動の内容を楽しみにしています。日常において、業務に没頭しているとなかなか他の事まで気が回らなくなるので、毎年この発表を聞いて我々「建築士の役割」について勉強させてもらっています。今回印象的だったのは、宮崎県の取り組み「かまどベンチ」でした。日常のなかにいつ非日常が飛び込んでくるかわからない。そのときに慌てなくて済むように「いざ」の意識付けを行う、という着眼に注目しました。

さて、分科会は第1～第5まであり、バラエティの豊富さは大分県の魅力そのものであると実感しています。誰もがどの分科会に参加しようか迷ったことでしょう。

私は、大分支部の方々が取り組んだ第5分科会に参加しました。「ほんとうに必要な仮設住宅とは」がテーマで、東日本大震災の被災の写真や実際に仮設住宅に住んでからの情報をもとに分析された報告やパネルディスカッションが行われました。気に

なったところは、「住宅の精度」と「孤独死や復職などの社会的課題」。防犯・防寒・結露など、仮設という緊急設定による物理的な問題点がある上、さらにはそこに住む人の心のケアなど継続的な課題をも内包している。今大会のテーマ「今、私たち建築士に何ができるのか～」…ふと足を止める。手を差し伸べる勇気が必要となる…考えなければいけません。

本大会も無事に終わり、みんなが楽しみにしている懇親会が始まりました。場所はホテルマリエールオークパインに移り、会場の広さ、料理など自負できるものでした。各県アピールも年々思考を凝らしたものとなり、ゆるキャラの登場に会場は騒然(笑)。



思わず「建築士会、万歳！」と叫んでました。大分県のメンバーはほぼ自分の役割を終えたという安堵もあり、みんな楽しく祝杯を交わしていました。

次回は長崎県です。今年以上の期待もしながら、また来年も長崎へ参加したいと思います。

今回地元開催ということで、1年以上前から準備に携わってこられた青年部長さん、副青年部長さん、そして実行委員長を務められた日田の青年部長さんと日田支部のみなさん、全青年部と建築士会の方々、大変お疲れさまでした。



平成25年度日帰り研修旅行 熊本城と山鹿の旅(馬刺しも食べますよ!)

臼杵支部 赤嶺 竜一

臼杵支部では、恒例の研修旅行の時期が、やってまいりました。事業部 門根氏の音頭により、7月21日日曜日、臼杵支部有志20名(若干数人は馬刺しのみ楽しみの方がおりました。)…えっ、私です。バスは行く行く熊本へ、お天気も最高すぎる満点です。まずは、熊本市内へ流れていきまして、熊本城へ、もちろんメインは、5年前に復元公開されております本丸御殿「昭君之間(しょうくんのま)」であります。いつ見てもきれいでゴウジャスな間であります。



この昭君之間は、藩主の居間として使われていたようですが、一説によると、豊臣家の有事に際し秀吉の子秀頼を密かに匿うために造られた部屋であるといわれているそうです。熊本城は、1588年(天正16年)、加藤清正が肥後北半国19万5000石の領主となり、1591年(天正19年)から千葉城・隈本城のあった茶臼山丘陵一帯に城郭を築きはじめました。1600年(慶長5年)頃には天守が完成。1610年(慶長15年)から、通路によって南北に分断されていた本丸に通路をまたぐ形で本丸御殿の建築が行われ、これにより天守に上がるには、本丸御殿下の地下通路を通らなければならないようになったそうです。「闇り御門」です。みなさんは天守に息上がりながら(肥満児には対敵です。)登って行きますが、意外と登ってないのが、「三の天守」とも呼ばれる宇土櫓(うとやぐら)です。



3重5階地下1階で、熊本城では大小天守を除いて最大の櫓であります。高さ約19メートルもあるそうで、近世以前に建造された天守や櫓との比較では姫路城、松本城、松江城に次いで4番目の高さであるそうですよ。

さあ、今回メイン…私だけ。

熊本市内へ上通り 菅乃屋さん やっぱ本場で頂く馬刺しは、美味であります。最高であります。



— 菅乃屋 上通り店 —

熊本市中央区城東町2-12 ライオンパーキングビル2F

次は山鹿へ向かいます。山鹿と言えば、山鹿温泉・八千代座(私だけかな。)へ、何年か前にTVで裸の大將(山下清)の舞台になっていたのを見て一度拝見したいと思っていました。この八千代座は、明治43年に建てられた芝居小屋で、昭和40年代末には使用されなくなり、朽ち落ちる一步手前になっていたそうで、市民の寄付活動により瓦の葺き替えが行なわれるなど、保存に向けての運動が行なわれ、昭和63年に国の重要文化財に指定されました。平成13年に保存修復工事が完了し、全国的にも希少となった伝統的な芝居小屋の様式を今日にも伝えておまして、今日でも歌舞伎公演など、さまざまな文化活動の場として利用されているそうです。場内見学は、舞台裏の奈落まで案内され ガイドのお姉さん…の笑い満点・詳しい説明もGOODでした。有志は、さくら湯 山鹿温泉を単能致しました。いい湯でした。



今回最終研修地 山鹿菊鹿町にあります「鞠智城(きくちじょう)」へ。7世紀後半に築かれた山城です。整備された公園内に建つ八角形鼓楼は1999年に復元され当時の建築を見ることが出来ました。

今回旅行に先立ち、音頭をとって頂いた・添乗員顔負けの事業部門根氏に感謝です。



佐賀関支部活動報告

佐賀関支部 井上 雅順

佐賀関支部では、公益社団法人化に伴い「まず、社会に貢献できて、なおかつ建築士会という団体の宣伝につながる活動をやろう」という話が、支部の定例会議で提案され、具体的に何をすればよいのかを長時間話し合った結果、「以前に取り組みしていた“リフォームヘルパー”をもう一度復活させたらどうか」という意見が出ました。

リフォームヘルパー活動は市町合併し、福祉を取り巻く行政組織が大きく変化したことから、衰退していたものですが、合併直前までは、高齢者や体の不自由な方などを対象に、介護保険制度を活用した住宅改修をはじめ、いろいろな住宅のリフォームに関する相談・診断・見積などを無料にて実施し、地域に貢献してきた活動です。

内容としては、支部が窓口となって相談を受け付け、適切な設計事務所と業者をその都度選定し、住宅の問題点の診断、リフォームの相談を受け付けます。そこから話が進めば見積もり、契約、工事施工へと進み、完成後は契約高の内から1%の管理手数料（なんて良心的！）を支部へ還元する仕組みでした。

ほんの数年間でしたが施工事例は60を超え、支部がただの、「のんべえ集団」ではないことを内外にアピールできた数少ない…もとい、数多くの成功例のうちのひとつでした。

今回の公益事業についても、「よし！ それでいこう！」と話がまとまり、次に具体的な活動内容を詰めていきました。

まず、「佐賀関地区を大きく3つの地区に分け、北部の本神崎地区、中部の佐賀関地区、南部の一尺屋地区に分割し、地区別にリフォームの無料相談会

をやろう」「告知のためにチラシを作成したらどうか」「ただのチラシでは社会貢献にならない。チラシの表には平成24年度に取り組みした「みなとまちづくり事業」の一環としてサインのデザイン作成をしていたことから、地域住民と佐賀関に訪れた方のため、町内の歴史的建造物や観光のルートが記載された「まちあるきマップ」を作成し、その裏にリフォーム相談の事を記載したらどうか」「もちろんマップに載せる建築物の写真や記事は我々の足で取材し、まとめよう」…と次々にアイデアが出てきて白熱した会議になりました。



次に、参加業者のピックアップです。支部には現在、総合建築、木工建具、給排水設備、塗装…など様々な業種の会員がいます。それらの会員がリフォーム相談会に相談員として参加し、相談者のニーズに応じた接遇と説明を的確にする必要があります。「腕はいいが口下手」では困りますが、そこはみんな一国一城の主、この不況の中、しぶとく生きてきた経営者の集団です。ビジネスチャンスとばかりに目をギラつかせながら会心の笑顔で相談会を仕切ってくれるものとおもいます。

そして、去る7月6日の土曜日、土砂降りの雨が降ったかと思えば急に太陽がギラつくという変な天気の日、支部のメンバー7名と地元の写真館のカメラマン兼ガイドの方と計8名で「さがのせきまちあるきマップ」作製の記事と資料集めをしました。

ご存じの方もいると思いますが、佐賀関は、あの幕末の英雄「坂本竜馬」と「勝海舟」が四国より上陸し、徳応寺（とくおうじ）というお寺に宿泊した後、九州地方へ旅立った土地です。

徳応寺には今も当時の宿帳が残っており、竜馬達が滞在した際のゆかりの地や建造物が佐賀関町内に今も数カ所残っているため、今回は「竜馬ゆかりの地めぐり」をテーマに町内を歩きました。



坂本 龍馬



勝 海舟

まずはルート決めから…佐賀関支所からのスタートです。雨は降ったりやんだりしています。



途中、漁業関係の石碑などの調査もしました。



佐賀関に上陸した坂本竜馬の一行は人数がちょっと多かつたらしく、徳応寺だけでは全員の宿泊は無理だったみたいで町内の数軒の民家（今で言う民宿？）に宿泊したらしいです。

また、その一行の身の回りのお世話をした家など、それらの家系が今も現地に暮らしています。



竹田屋跡地にて

あらためてゆっくりと歩いてみると、広島尾道にも似た佐賀関の街並みを写真に取めたり、小さい路地の奥に古民家があったりといろいろな発見がありました。（佐賀関の高齢者率も再認識させられました）これらは大分市中心部とはまた違った良さがあります。

そして議論を重ねた8月中旬、ついにマップが完成し支部のみんなで手分けして8,000枚ものマップを各地区ごとに仕分けしました。各地区長への協力依頼なども済み、あとは相談会本番を待つのみです。



完成したマップの仕分け作業中

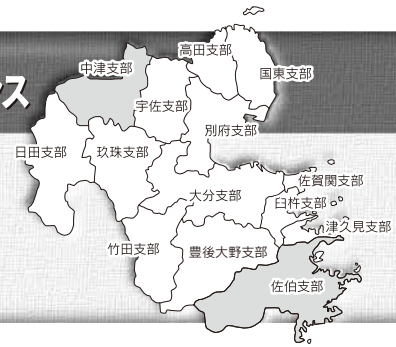
相談会の様子や結果は近い将来、報告できると思いますのでそれはまたの機会に…佐賀関支部の活動報告でした！

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和46年12月9日
- ★勤務先 ATAVUS SATOH (アタヴァス サトウ)
- ★趣味 映画鑑賞・アウトドア
- ★将来の夢、モットー等

建築士会（中津支部）に入会し数年が過ぎます。支部の中では、副青年部長をさせて頂いております。

昨年中津市で開催された“サマーセミナー”、今年日田で開催された“建築士の集い”などに、打合せ段階から参加しました。大分県各支部の青年部の方々と知り合うことができ、有意義な活動を行えました。また、この活動を通じ、自分自身いろんな意味で経験を積むことが出来たと思います。

今後は、大分県としての活動及び支部としての活動に今以上積極的に参加し、学ばせていただこうと思います。



佐藤 博昭（中津支部）

- ★生年月日 昭和52年4月18日
- ★勤務先 株式会社 樹の家こころ舎
- ★趣味 釣り（海）、旅行、野球（草野球）
- ★将来の夢、モットー等

初めまして、大林です。建築士会には、7年前に入会しました。最初の頃は、忘年会や講習会などに参加し、いろんな人達に出会い、交流を深めてきました。一昨年からサマーセミナーや、九州パッション等に参加し、地域による展示物を見たり、観光をしたりし、とても良い経験をする事が出来ました。

今後も建築士会の活動に参加し、日々の生活や仕事に生かせるように頑張っていきたいと思っています。

どこかでお会いする事があるかも知れませんが、気楽に話しかけてください。おもしろい事は言えませんが（笑）

今後とも、よろしく申し上げます。



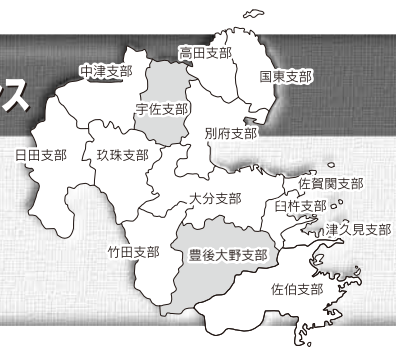
大林 豊文（佐伯支部）

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和55年11月24日
- ★勤務先 有限会社 浜永建材店
- ★趣味 映画鑑賞、スポーツ観戦
(もっぱらテレビにてですが…)

★将来の夢、モットー等

宇佐市で、瓦屋根工事を主に行っています。
近年、瓦工事での新築物件が少なくなっているという危機感があります。
瓦工事ならではの形を設計士さんや大工さんと考えていきたいと思っています。
今後は、模擬屋根などを使ってさらに勉強し、魅力ある屋根瓦の提案をしていきたいと思います。
ご指導のほど、宜しくお願いします。



濱永 泰仙 (宇佐支部)

- ★生年月日 昭和45年6月2日
 - ★勤務先 高野建設一級建築士事務所
 - ★趣味 モトクロス
- ### ★将来の夢、モットー等

建築士会豊後大野支部に入会し、10数年が経ちました。入会当初は、支部の総会に出席する程度でしたが、その後、支部の活動に参加するようになり、士会の先輩方より色々なことを学ぶことができました。最近では、青年部活動を通じ、様々な経験をさせていただき、同世代やさらに若い世代より、多くの刺激を受けております。

今後は、これまでに学んだことを基に、建築を通じて多少なりとも地域に貢献できる仕事をできればと、考えております。これからもどうぞよろしくお願い致します。



阿南 英彦 (豊後大野支部)

MY WORK

- ★建物名称 住吉浜リゾートパーク
グランドゴルフ場クラブハウス
- ★建築場所 杵築市守江
- ★建築主 社会福祉法人博愛会
- ★設計者 さとう設・工一級建築士事務所
佐藤勤也
- ★構造・面積 木造平家建て 133.3㎡
- ★用途 クラブハウス
- ★竣工 平成24年6月
- ★設計趣旨

住吉浜リゾートパークにグランドゴルフ場がオープンしました。そのクラブハウスの白亜の容姿が緑に良く映えています。

すぐ隣にはゴルフ場が整備されており、また周囲が海ですのでマリンスポーツにはもってこいです。

各種の宿泊施設があり、老いも若きも揃って楽しめる環境が整っています。

広い海原、美しい海岸線（プライベートビーチ）と松林のコントラスト、サンライズ、サンセットと表情を変える景色に目を眩ります。日頃の喧騒を忘れ、ただ、佇むだけでも癒される、そんな処です。



- ★建物名称 H店舗併用住宅
- ★建築場所 佐伯市内町
- ★設計者 谷川建設工業(株)1級建築士事務所
椎原 華愛
- ★施工者 ザウラス (谷川建設工業株式会社)
- ★構造・延床面積 鉄骨造三階建て 165.09㎡
- ★用途 店舗併用住宅
- ★設計趣旨

1. シンプルな外観
2. 統一感のある内装
3. 天然無垢材のテーブル・カウンター
4. フレキシブルな小上がり座敷
5. オリジナルデザインの建具



MY WORK

- ★建物名称 大分古国府の家
- ★設計者 HIRO建築設計工房／中尾 忠廣
- ★施工者 CM(直営)方式
(大工工事:(株)浅野建設 他)
- ★構造・面積 木造2階建て専用住宅 130.02㎡
- ★設計趣旨

近くの森の木で家をつくる。昔はそうでした。しかし、物流が発達するといろいろな都合で木材の流通ルートも変わってきました。

林業家・製材所・工務店・設計事務所で作る地域材を使った家づくりのネットワークに参加して6年目、いろんな課題はあるものの現在進行形です。

今のところ 100% 同じ山の木を使うのは難しく、主に構造材として使用しています。外観は耐久性を重視してガルバの鉄板で、メンテしやすい平屋部分はポイント的に杉板を使用。そのかわり、屋根や外壁下地と床板は材積を増やすために t=30mm杉板本実加工を使っています。



家に使う木を実際に山で確認



伐採して製材所へ



加工され現場へ 7寸の大黒柱

BOOK My Best Book

マイベストブック

【文明の崩壊】 ジャレド・ダイヤモンド
豊後大野支部 佐藤 勤也

「銃、病原菌、鉄」でピューリッツァー賞を受けたジャレド・ダイヤモンドの「文明の崩壊」をご紹介します。

文明崩壊 上巻

中米のマヤ、北米のアナサジ、イースター島、グリーンランドのノルウェー人入植地、かつて隆盛を極めていた社会は何故崩壊、消滅したのか。人類の謎といわれた古代、中世社会が辿った滅亡への道を解明する。

文明崩壊 下巻

人類の歴史には、転げ落ちるように崩壊した社会がある一方、危機に的確に対処し、乗り越えた社会もある。問題解決に成功した社会例として、徳川幕府の育林政策で森林再生を果たした江戸時代の日本、過酷な人口制限で社会のバランスを保つティコピア島。

更に現代の危機として、中国やオーストラリアの惨状を分析し、崩壊を免れる道をさぐる。

資源、環境、人口、経済格差など複雑化する崩壊の因子を探り、現代人の目指すべき方向を呈示する。

以上は全て表紙裏解説を借用いたしました。ごめんなさい。

地球の歴史に比べれば極めて刹那的な人の一生なので、とかく、我々の時代には…と厭世的、諦め気分になる事がある。

這い進む常態、風景健忘症という表現が出てくるが、静かに潜行し迫り来る変化には敏感になれない。地球温暖化、オゾン層破壊 etc…そんな事なのか？

話は変わるが、熱かった甲子園も前橋育英の初出場、初優勝で幕を閉じた。

荒川監督が、毎日選手達とゴミ拾いを励行している事。「人の心は一生もの」「凡事徹底」と語っていた。常に思う事、思い続ける事が鋭敏なアンテナになると思った。



【永遠の0】 百田尚樹／講談社文庫
玖珠支部 白地 泰憲

私事でなのですが…小説読んで初めて涙した本が「永遠の0」でした。

4年前NHKラジオ、朝の番組で「おすすめの本」として紹介されました。故児玉清氏がその番組に出演し絶賛しました。著者は「探偵！ナイトスクープ」の放送作家の百田尚樹氏です。

中身は太平洋戦争の話です。「生きて妻のもとへ帰る」日本軍敗色濃厚ななか、生への執着を臆面もなく口にして仲間から「卑怯者」とさげすまれた零戦パイロットがいた…。

人生の目標を失いかけていた青年・佐伯健太郎とフリーライターの姉・慶子は、太平洋戦争で戦死した祖父・宮部久蔵のことを調べ始める。祖父の話は特攻で死んだこと以外何も残されていなかった。

元戦友たちの証言から浮かび上がってきた宮部久蔵の姿は健太郎たちの予想もしないものだった。凄腕を持ちながら、同時に異常なまでに死を恐れ生に執着する戦闘機乗り…それが祖父だった。

「生きて帰る」という妻との約束にこだわり続けた男は、なぜ特攻に志願したのか？健太郎と慶子はついに六十年の長きにわたって封印されていた驚愕の事実にとどろつく。

はるかなる時を超えて結実した過酷にして清冽なる愛の物語…

当時の零戦の機体性能や空中戦の様子が詳しく書かれて物語の展開もスリリングで一気に読み出来ます。年末には映画公開も予定されています。

「売れっ子」作家の本を読んで、みなさんも「涙」して下さい。



BOOK My Best Book

マイベストブック

【医者のない診察室】 佐々木由美／三秀社
宇佐支部 和田 幸三

「Best Book」なのかと言われれば、そういう類には挙げづらい1冊。

テレビで見聞きしたことのあるような話が展開されますが、私の知人に起こった「現実」が綴られています。

テレビの世界の話だと思っていたような出来事が身近に起こったことで、日常では考えることのない、またあまり考えたくない自分や身近な人の病について、自分だったらどうするだろう的な他人事じゃないんだという神妙な気持ちになりました。

みなさんの中にも人知れず苦勞されてきた方もいらっしゃるかと思いますが、知人の知られざる苦悩の日々を目の当たりにして、衝撃を受けた1冊です。

まだ20代、順風満帆なはずの人生に待ち受けているのは、誰もがその病名を耳にしたことのある最悪のあれ。建築士にも色々得意・不得意分野があるのと同様、お医者さんだって万能じゃないんだと思い知らされる。最初にあきらめるのは医者…あきらめない医者を探して病院を転々。ドクターハラズメントや医療制度の問題も浮き彫りになり、まさにワラをも掴むような状況の中で進んでいくのは時間と病状ばかり。

快方へ向かうことを信じたい気持ちと心のどこかで最悪の結果を覚悟する気持ちが入り交じりながら、必死に駆けずり回って、どこかに希望を見い出そうとする文字通り命懸けの姿を見ていると、本来誰しも持っているはずの力強いエネルギーを感じさせます。それに比べて自分はなんてぬるいんだ！などと何をすればいいのかわからないけどとにかく頑張ろうという意欲を掻き立てられます。ただ、読み物としては極度の心配症の方にはあまりお勧めできない内容です。この話は自分自身に、あるいはすぐ傍で起こりうる、映画のような奇跡が起きるわけでもない受け入れ難い「現実」です。



おおいだ建物発掘隊

豊後高田市編

高田支部 後藤 憲二

豊後高田市が昭和の町として有名になっている。毎日多くの人々が豊後高田市を訪れて商店街やロマン蔵等を見学して懐かしい昭和の時代に思いを馳せている。

そんな中、ほぼ素通りされているが昭和の時代を経てその利用形態が変遷して現在に至っている建物がある。宇佐参宮線の駅舎を利用している大交北部ターミナルである。



今、豊後高田市には駅がないが、大正5年に宇佐参宮鉄道として開業し、昭和20年に戦時統合で大分交通宇佐参宮線となったが、昭和40年に廃止されるまで鉄道駅があった。今でも駅通り商店街という名前とともに商店街が残っている。豊後高田市が『昭和の町』としての町づくりが幸いしているかもしれない。



宇佐参宮線は、豊後高田から宇佐八幡までの8.8kmを走っていた鉄道であり、宇佐八幡宮駅で国鉄(当時、現在はJR)と接続していた。現在では、宇佐八幡宮への参拝は車で行くことが当たり前となっているが大正から昭和の中頃までは車がそれほど普及していなかったため、国鉄宇佐駅から宇佐八幡宮への参拝のルートとして大活躍していたに違いない。一日に13往復の運行であった。現在は、残されていないが宇佐八幡駅は堂々とした寺社建築でした。宇佐八幡宮駅が残っていれば、有名な出雲大社の大社駅といい勝負になっていたのにと残念な思いがする。

宇佐八幡駅跡付近には、ここを走っていた蒸気機関車26号が保存されている。



宇佐参宮線に関しては、現存しているものは極めて少なくその意味では、バスターミナルとバスの乗降ホームは貴重である。



豊後高田のバスターミナルは、通常のバスターミナルとは異なり、道路から約300mほど奥まったところにホームがあり、昔の駅を利用していることから現在の車中心のインフラには対応できておらず、バスターミナルを見つけにくい。下部の写真の様にバスターミナルの入り口からは奥にあるバスターミナルが分かりづらい。



上部の写真の右側や下部写真の右側にある敷地の柵にはレールが使われており、かつて使われていたレールと思われる。駅のホームの底の骨組みでレールを使っているものは見ることがあるが敷地の柵として使われているのはあまり見ることがないので面白い使い方である。単純な柵であるが組み方を工夫すると鉄道ファンの方は、自宅の外構として利用するといったかなとも思えた。



駅前のタクシー会社の建物には、在りし日の豊後高田駅の写真パネルが取り付けられており、鉄道が通っていたころを偲ぶことができる。

鉄道は、廃線になってしまっているが市内には鉄道が通っていた道が今も残っている。現在の道路整備状況がかつての軌道敷に沿ったものではないから



ちょっとわかりにくいけど眺めてみるのも面白いかもしれない。

又、ボンネットバスもこのバスターミナルからの出発ではないが、すぐ近くのロマン蔵から出発しており無料で乗車できるのでぜひ乗車してみることをお勧めします。





事務局だより

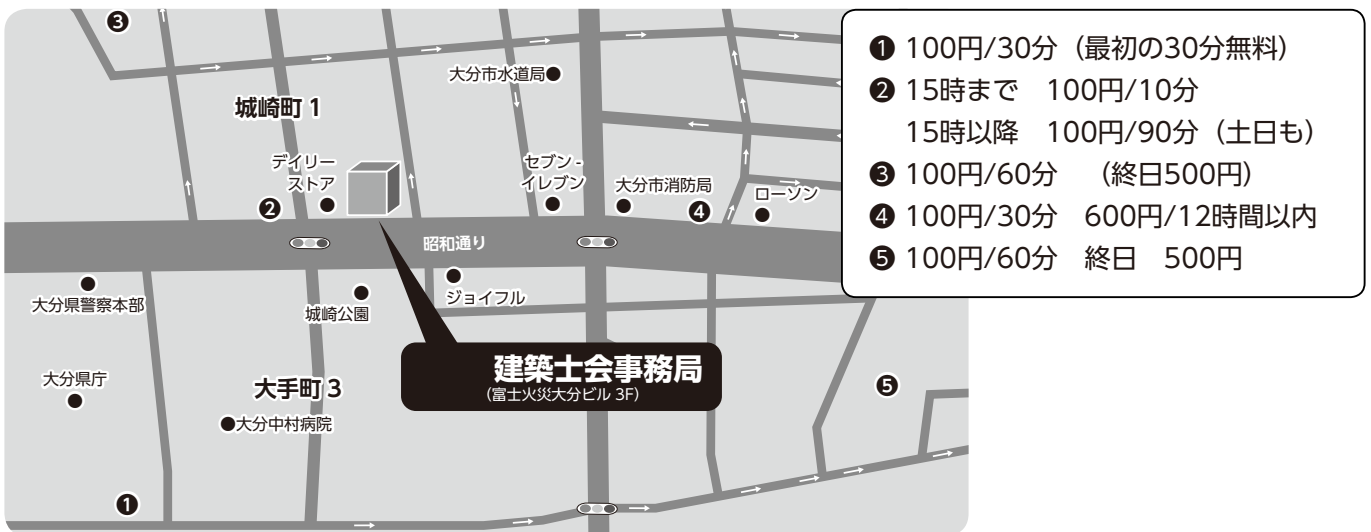
新公益社団法人のキャッチフレーズが決まりました。

会員、賛助会員の皆様に7月に募集しましたキャッチフレーズについて応募のあった35案を、応募理事を除く17名の理事により選定して頂き会長賞1案、優秀賞2案を決定しました。今後リーフレットや名刺、封筒など建築士会のPRに活用してください。

〈会長賞〉「人とともに 暮らしとともに 地域とともに」(穴井輔嘉さん&(株)大宣)

〈優秀賞〉「建築と人を結ぶ 安全・安心・信頼の架け橋」(後藤智恵美さん 昇降機センター)
「建てる! 築く!!…夢をかたちに」(嵯峨雄二さん 佐賀関支部)

事務局周辺の駐車場マップです。



平成25年度の事務局体制です。よろしくお願ひします。



後列左から

佐藤 (建築構造技術センター審査部長)
安部 (建築構造技術センター主任判定員)
穴井 (専務理事兼事務局長)
伊藤 (事務局次長)

前列左から

平野 (大分支部、青年・女性委員会ほか)
羽仁 (建築構造技術センター)
福田 (本部、建築士登録ほか)
丹生 (昇降機センター、定期講習ほか)

広報委員

担当副会長	〈佐賀関〉	渡	邊	豊	基
担当常務理事	〈大分〉	阿	部	文	昌
委員長	〈大分〉	後	藤	幸	悟
委員	〈大分〉	中	園	幸	治
	〈大分〉	赤	峰	秀	樹
	〈大分〉	岐	部	和	久
	〈大分〉	仲	道	美	紀
	〈津久見〉	山	本	忠	弘
	〈日田〉	佐	藤	敏	孝
	〈中津〉	宇	木		晃
	〈宇佐〉	渡	辺	賢	一

編集委員

委員長	〈高田〉	後	藤	憲	二
副委員長	〈大分〉	岐	部	和	久
	〈臼杵〉	赤	嶺	竜	一
	〈宇佐〉	渡	辺	賢	一
委員	〈国東〉	野	田	忠	廣
	〈別府〉	須	藤	祐	未
	〈大分〉	都	留	淳	一
	〈大分〉	大	下	竜	治
	〈大分〉	後	藤	宏	之
	〈佐賀関〉	井	上	雅	順
	〈津久見〉	大	村	正	壽
	〈佐伯〉	長	田	孝	治
	〈佐伯〉	正	田	寛	子
	〈豊後大野〉	佐	藤	勤	也
	〈竹田〉	玉	田		智
	〈玖珠〉	白	地	泰	憲
	〈日田〉	櫻	木	弘	三
	〈中津〉	是	本	昭	善

建築士大分 2013.10 No. 111

(非売品)

平成 25 年 10 月 1 日 印刷

平成 25 年 10 月 1 日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0907	別府市幸町 8-32 (株)ユウキ内	0977-22-1921
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市大字関 3068 高島建設(株)内	097-575-0116
臼杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下 1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2436	津久見市上宮本町 6-22	0972-82-8806
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-23-6099
豊後大野	879-7131	豊後大野市三重町大字市場 2 区	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0025	日田市田島 1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
高田支部	http://www2.ocn.ne.jp/~o-takada/		
国東支部	http://www18.ocn.ne.jp/~ksikai/		
別府支部	http://www.beppu-onsen.jp/		
大分支部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
佐賀関支部	http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/		
臼杵支部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/index.html		
津久見支部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
佐伯支部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
豊後大野支部	http://www16.plala.or.jp/sok-mie/		
竹田支部	http://ww61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm		
玖珠支部	http://homepage3.nifty.com/ken-kusu/		
日田支部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
中津支部	http://kentikusi-nakatu.net/		
宇佐支部	http://www.d-b.ne.jp/usasikai/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～
目標 3,000 人突破



公益社団法人 大分県建築士会